

2012年度のまとめ

2012年度は「大阪教育大学生協のビジョンとアクションプラン」に基づき、アクションプラン（中期計画）の実現に取り組んできました。2012年度に達成すべき課題として掲げたことにそって到達点を振り返ります。

1. 勉学や教育・研究に必要な商品やサービスを充実させる事業にとりくみます

- ① 授業に必要な教科書・参考書の手配はもちろん、TOEFL 等大学が実施する検定試験などをサポートします
- ② 教員の図書購入をサポートするための「選書システム」を導入し、定着を目指します
- ③ 学生の読書習慣を養う「読書マラソン」にとりくみ、読書を通じた組合員どうしの交流を広げます
 - 附属図書館協力のもと「選書システム」の立ち上げ準備を2012年度後期に行い、2013年4月にシステム公開、利用者ID配布を開始しました。
 - 学生の読書習慣を養う企画として、生協学生委員会で「読書推進企画」を複合店で展開しました。読書マラソンについては、参加している人は非常に熱心なのですが、参加者のすそ野を広げることがやりきれいでいません。

2. 大学構成員の福利厚生の充実のため、大学や教育振興会とも協力しながら施設やサービスを改善し、組合員満足度を高めます

- ① 大学生協の満足度・生協店舗の利用満足度を高めるため、生協職員自らが厳しい目で評価・改善し続けるとともに、アンケートや「一言カード」での要望にできる限り応えます
- ② 組合員の大きな不満である「混雑問題」については、組合員の協力も求めながら、導線の整理やホール誘導係を配置するなどの手立てを実施し続けます
- ③ 未だ着手できていない柏原キャンパス複合店の改装を準備し、2014年実施を目指して大学と協議をすすめます
- ④ 「大学生活4年間の中でどこかの生協店舗がリニューアルされる」という状況を作れるよう、自己投資に耐えうる、適切な剰余を生み出す経営を続けます
 - 「一言カード」はリニューアルを行い、より迅速に回答するように取り組んできましたが、目標の「2012年度学生生活実態調査で、『知らない』人が8%以下」は達成できませんでした。（11年度10.2%、12年度28.8%）
 - 組合員評価の具体的な改善ポイントとして、「品切れの防止」「温度管理」を掲げていましたが、一部店舗では達成できていません。
 - 組合員の満足度評価は、以下の結果になっています。
 - 全体として、食堂部は「総合評価」「品揃え」「クイックサービス」「クリーンネス」「声の活用」のいずれも評価があがりました。特に「声の活用」では、前期に実施した「井メニューコンテスト」、後期の「大教ホッかる開発プロジェクト」など、学生委員会を中心に組合員の考えたメニューを募集～投票～試食会～販売するという一連のとりくみを通じて、組合員に生協運営への参加実感が広がっていると考えられます。
 - 購買部では「総合評価」「クリーンネス」では評価が上がっていますが、「品揃え」「品質管理」で評価が下がっており、これから検討する改装に向けた課題となります。

- 生協全体としては「身近度」「満足度」とともに評価があがりました。

(*は評価が上がった項目)	購買部		食堂部	
	12年実績	11年実績	12年実績	11年実績
総合評価 (10点満点)	7.2点*	7.0点	7.5点*	7.2点
欲しい商品・好みのメニューがある	54.7%	62.4%	67.5%*	61.5%
商品の品質がよい	74.2%	76.1%		
すぐ食べられる			81.6%*	76.1%
店内がきれい・店内が明るく清潔	87.1%*	84.5%	75.3%*	69.5%
声が活かされている	78.6%	81.8%	85.2%*	82.3%

	12年実績	11年実績
あなたにとって生協は 身近・まあ身近	96.7%*	92.9%
現在の生協は 満足・まあ満足	86.7%*	85.4%
トータルで見て生協は 好き・まあ好き	90.8%*	90.3%

- 混雑緩和については、2012年新学期にホール誘導係などを一部配置したり、時間差利用を促進するために、ライス割引券の配布や午後のポイント率アップなどにとりくみました。昼休みの短い時間に利用が集中する傾向は今後も変わらないため、引き続き取り組むべき課題です。
- 「自己投資に耐えうる適切な剰余」という面では、事業報告書の「事業の経過」でもあげたように、特別利益が中心の剰余構造となっており課題を残しています。

3. 大学のキャリアサポートのとりくみに貢献するとともに、組合員どうしの協同の中から学生の「将来を考え、準備する」ための場づくりを行います

- ① 組合員と大学が求めている「英語力」「PC活用力」を高めるための事業に着手します
- ② 「就職活動を始める3年生までにどのような大学生活を送っていくべきか」を考えるための、1年生向けのセミナーや講座などにとりくみます
- ③ 大学生協らしく「先輩組合員と後輩組合員」「教職員組合員と学生組合員」「組合員どうし」の協同やつながりを通じて、「自分の将来を考え成長を育む」場づくりを行います
- ④ 大学のキャリア支援センターと協議の場を設け、意見交換をすすめながら、大学生協が行える事業についてさらなる検討と大学への提案を行います
- ⑤ 寄附講座や奨学金など、間接的に大学の教育・研究を支えるとりくみについて大学へ提案し、協議を行いながら実施します

- 2012年度はこれまで専門講師を外部から派遣して開催してきた「PC講座」を新たに「PC&情報活用講座」とし、「先輩サポーターが指導案を作成し、受講生をサポートしながら自分も成長する」という事業に転換しました。受講生のみならず、サポーターが「就活に必要な積極性やコミュニケーション力を養うことができた」と成長を実感できる事業をすすめることができました。
- 新たに「ITパスポート試験対策講座」「インストラクション講座」を実施しましたが、出席率が低く、次年度に課題を残しました。開催時期の問題や先輩サポーターが継続して関わるしくみになっていなかったこと要因と考え、2013年度は修正してスタートしています。「インストラクション講座」に最後まで出席した受講生は、次の成長ステップとして2013年度に生協の「キャリアサポーター」に登録し、すでに活躍中です。
- 2013年に向けての目標とした「新入生のためのビジョンナビセミナー」の計画は見送りましたが、

新入生のキャリアサポートについて生協らしく「先輩から後輩へ」という組合員どうしの協同を軸にすすめていくことがポイントになると考えています。

- キャリア支援センターとの協議については、副センター長と1度協議を行ったのみにとどまりました。寄附講座の情報収集、提案も含め、2013年度以降の重要な課題です。

4. **さまざまなテーマについて考え・知らせるとりくみや事業を通して、学生の「生活主体者」としての成長を支援します**

- ① 健康的な食生活を送れる「食生活の自立」や、消費者被害にあわず自活できる「消費生活の自立」、一般社会で生活する上での「マナー」など様々なテーマでの学びの場づくりを行います
- ② 健康で安全な大学生活を送れるための「学生どうしの助け合い（共済事業）」の強化と、病気・事故防止のための啓蒙活動の強化をおこないます
- ③ 学生が自分と社会や他人とのつながりを知り、社会性を身につける場面として、事業への参加や環境問題、国際交流などを位置づけ、とりくみます

- 学生総合共済の年間を通じた呼びかけは、学生委員会の健康安全企画の中でポスターでの呼びかけや特設コーナーの設置などを通じて強化してきました。しかし、2012年度は生命共済の加入者が473名とわずか6名が増加したのみで、入学者比率は50%を割っています。引き続き「学生どうしのたすけあい」としてより多くの人に輪に加わってもらえるよう、すべての未加入者に呼びかけていく必要があります。
- 共済事業の認知度は、目標として60%を掲げましたが、12年度は48.3%（11年は53.1%）と前年を割る結果となりました。部門の職員だけではなく学生委員会や職員全体で、あらゆる場面を通じて広報していくことと合わせ、大学の保険担当の方や保健センターなどへの報告も強化していくことが課題です。
- 消費者としての自立、食生活の自立などに関するとりくみは、2012年3月に実施した「新入生・保護者説明会」での生協職員からのプレゼンや資料配布のみにとどまっています。

5. **大学生協の存在価値を組合員自らが実感できるよう、広報活動を強化するとともに加入促進と事業への組合員の参加を広げます**

- ① 大学生協の使命や目標を大学、教職員、学生やその保護者に対して広く発信し、大学生協を知ってもらうとりくみをすすめます
- ② 教職員の生協加入率を高めるためのとりくみを実施し、すべての大学構成員が参加・協力できる組織づくりをすすめます
- ③ 大学生協の事業に直接組合員が参加できる場を増やし、「利用者」としてのみでなく「運営者」として生協への関わりをもてる組合員を増やします
- ④ 組合員の事業参加の場面に生協で働くパート職員の参加も広げ、やりがいの実感できる組織づくりをおこないます

- 2012年の総代会で策定した「大阪教育大学生協のビジョンとアクションプラン」のカラーパンフレットを作成し、広く教職員に配布しました。一度の配布のみでなく、継続して発信していくことが課題と考えています。
- 2012年度の課題とした「教職員向けの加入案内冊子」については未着手に終わりました。
- 学生委員会の「店舗に関わる取り組み」は、2012年前期に実施した「読書推進企画」、下期に実施した「大教ホッかる開発プロジェクト」など旺盛に実施しました。引き続き、「事業に直接組合員が参加できる場面づくり」は学生委員会の中心課題として位置づけていきたいと考えます。

6. 地域や社会の中での大学の在り方に根差し、大学の要望に応え続けるとともに、自らも自立した事業組織として持続可能な社会づくりに貢献します

- ① 省エネキャンパスの実現のため、大学の省エネルギーのとりくみに協力するとともに、店舗内・事務所内での省エネに年間を通じてとりくみます
- ② 国際交流フェスティバルなど「地域に開かれた大学づくり」のためのとりくみに積極的に協力します
- ③ リサイクル可能なテイクアウト容器を使用するとともに、回収率向上（リサイクル促進）のための啓蒙活動を強化します
- ④ 大きな災害が起きた被災地への支援活動に継続的にとりくみます。また、万が一大学が被災地になった場合には、大学と連携・協力したとりくみをすすめます

- 2012年度も前年にひきつづき、夏・冬の2回にわたって大学の「省エネキャンペーン」が行われ、生協としてもホールやショーケース照明の一部消灯、自販機の照明消灯やコンプレッサー一部停止など、積極的に協力しました。
- リサイクルを促進するとりくみとして、「ホッかる弁当」の容器リサイクルを学生委員会を中心にすすめました。ポスターで呼びかけたり、回収BOXの地図を売場の近くに掲示したり、大きなホッかる容器のオブジェを作成して啓蒙を図りましたが、2012年度の年間平均回収率は21%と、目指していた30%以上を達成できませんでした。次年度への課題となるところです。
- 「災害時における協力協定」は、2012年9月4日付で大学と生協とで締結しました。また、大学からの要請に応じて、停電時にも供給できる自販機「災害救援ベンダー」を2台設置しました。

以上